

別記様式

会 議 録

会議の名称	平成 29 年度第 7 回 大平地域会議
開催日時	平成 29 年 11 月 24 日 (金) 午後 6 時 30 分 開会 午後 8 時 40 分 閉会
開催場所	大平総合支所 新館 2 階 第一・第二会議室
出席者氏名	別紙のとおり
欠席者氏名	別紙のとおり
事務局職員職氏名	別紙のとおり
その他出席者等	別紙のとおり
会議事項	・ 栃木市消防団再編計画 (案) について【意見聴取】 ・ 栃木市地域防災計画における地域支援体制の整備について
会議の公開又は 非公開の別	公開
傍聴人の数	0 名
その他必要事項	
会議の経過	
発言者	議題・発言内容・決定事項
●事務局	1. 開 会
◆会長	2. あいさつ
●担当	3. 栃木市消防団再編計画 (案) について【意見聴取】 栃木市消防団再編計画 (案) について、資料に基づき説明。
◆委員	消防団員の年齢制限はあるのか。
●担当主幹	18 歳以上という基準はあるが、上限は設けていない。
◆会長	女性団員は現場の消火活動をしないうことだが、男女で役割分担が決まっているのか。現場の活動をしたいという女性がいた場合、それはできないのか。
●担当主幹	力が必要な場合もあるので、現場には出ていない。大規模災害の場合は、情報収集をしていただく。
◆会長	実際の災害現場では、女性ならではのケアが必要な場合もあると思うが、どうか。
●担当主幹	その場合は、女性が出ることもあるかと思われるが、現段階で女性団員が消火活動を行うことは考えていない。

◆委員	組織の再編については、平成 33 年から各方面隊より選出された（仮称）統括本部を設置するとのことだが、これが地域性にとらわれることなく全体を見渡すようなイメージとなるのかと思う。しかし、その上に副団長が各地域担当ごとに置かれているがこの位置付けがよく分からない。
●担当主幹	28 頁に組織図があるが、副団長 1 名の下に現在の本部分団が入るイメージである。
◆委員	地域の方面隊をみる分団長が 1 名いて、統括本部副本部長となっているのに、その上の副団長 1 名はどのような位置付けになるのか。
●担当主幹	いきなり組織を変えることは難しいので、副団長が各地域の各分団を統括するイメージである。
◆委員	29 頁に出動区域の見直しとあるが、今まで分散していた方面隊を、統括本部を設置することによって出動区域を見直す方向になったと理解している。例えば大平の団員が栃木区域に出動するというイメージを持った。
●担当主幹	1 つの現場に、大平方方面隊と栃木方面隊が出動するということになる。柔軟に出動区域を見直し、効率良くしていく方向である。
◆委員	団員の勧誘の方法については、これまで通りか。これから変更する可能性はあるのか。
●担当主幹	団員確保の方法については、各地域で違いもあり統一は難しいことから、これまで通りと考えている。
◆委員	既に確保が難しいという人が多いのであれば、見直す方向で考えてもよいのでは。
●担当主幹	どうしても確保が難しいとなった場合は、部と部の統合も考えていかなければならない。実際に統合する場合には、関係する自治会の方々に「何人出せるか。」等を協議しながら進めていくと思われる。
◆委員	消防車両に関してだが、古くなった車両でクラッチが戻らない時や、速度が落ちない車両もあった。買い替えは何年が目安なのか。
●担当主幹	18 年を経過した車両から更新することとなっている。故障箇所については、早めに修理していきたい。

◆委員	<p>消防団員数についてだが、今回の再編で人数が少なくなるのかと思っていたが、大平地域については変更なしということか。「必要に応じて検討する。」というのはまだ検討されていないということだと思うが、今は必要ないということか。見込みとしてはいつ頃検討するのか。</p> <p>こういった見直し（案）を出す際に、適正規模というのはなかなか難しいと思うが、類似団体等の団員数を検討したりしているのか。</p>
●担当主幹	<p>類似団体との比較について、確かに近隣の消防団で栃木市より定数が少ないところもある。しかしそれが適正かというところではないと思う。様々な条件がある中で、何が適正かという難しい問題である。</p> <p>もう1つ、「必要に応じて検討する。」というのは、計画は3年間あるので、その中で検討していきたい。栃木方面隊の場合は、この計画作成中にこういったご意見を伺ったので入れてある。</p> <p>大平方面隊の場合も、実際に人員が確保できないという意見が出れば、自治会へ確認させていただきながら協議していきたいと思う。</p>
◆委員	<p>団員の確保が難しいから減らしてほしいと言っているのではない。活動するにあたっては当然必要な人数は確保すべきだと思う。しかし、色々な地域が合併し、ただ合わさっただけだと、多いと思う。お互いの地域で助け合うのであれば、もう少しコンパクトな組織になるのではないか。消防団の維持費もかかるのであるから、私としてはもっと早急に見直しを検討していただきたい。</p>
●担当主幹	<p>分団の統合に際しては、団員の確保が難しく、団員数が減ってしまって消防団の活動がやっていけないとなった場合に、統合していくと考えている。適正な人数が分かりにくいというのもあるし、「団員を確保する対策」として統合するということである。</p>
◆会長	<p>大平地域会議の意見としては、大平地域に関しても、分団・部の統合等及び消防団員数の見直しをなるべく早く取り組んでいただきたい。ということでもよろしいか。</p>
◆全委員	<p>《了承》</p>
●担当課長 ●担当係長	<p>4. 栃木市地域防災計画における地域支援体制の整備について</p> <ul style="list-style-type: none"> ・栃木市避難行動要支援者対応マニュアルについては、平成30年度に完成させ、同じく、避難行動要支援者支援班についても平成30年度に福祉部門で構築していく。 ・マニュアルの中で支援班の役割や体制をより具体的にしていきたい。

◆委員	<p>以前、社会福祉協議会では、災害時に高齢者や障がい者を助けるマップを作成していたかと思うが、その時点では行政の介入はなかった。具体的にどのように活用されるかも分からないままだった。一昨年のような水害があった場合、今度は行政が自治会をリードするという解釈でよろしいか。</p>
◆会長	<p>弱者救済のスタンスも、自治会経由であったり、民生委員経由であったり、様々なものがあると思う。</p>
◆委員	<p>自治会が中心的な組織になるというのは理解できるが、実際に自治会活動に携わってみると、地域の活動等で忙殺されてしまい、組織的に弱者を見守ろうという体制になりにくいのは確かである。行政等で強力に推し進めていくしかないと思うし、自治会に丸投げではなく、行政としてある程度道筋を示した方がよいと思う。</p> <p>昨年、私の自治会で見守り、救護救援隊というのを設けた。さらに今年度は見守りMAPを作成しているが、実際に災害が起きたらどうなるのかという不安もある。もう少し、行政の積極的な介入をお願いしたい。</p>
◆会長	<p>その辺りは個人情報への壁があるのか。</p>
●担当課長	<p>防災の観点から申し上げますと、主に自治会単位で自主防災組織を組織していただき、ある一定の役割を担っていただき、市はそれを支援するという方針を進めている。現在市内で54団体設立されており、来年度からは組織のリーダーとして活躍していただけるような人材を育成する研修会を開催していく計画である。</p> <p>もう1点、普段の見守りの観点から申し上げますと、民生委員等を中心に動いていくものと認識している。いざという時には、自主防災組織の方々と民生委員を中心に連携して動いていただくのが理想である。</p> <p>個人情報の問題として、民生委員が所持している見守り用の名簿を防災組織の方々に渡すことはできない状態なので、その辺も含めて「地域支え合い条例」で「見守り活動の仕方」というのを新たに構築していく必要があると思われる。その中で要支援者も含めて自治会へ名簿を提供することを検討していく。</p>
◆会長	<p>2つの観点から説明をいただいたが、結局は普段の見守りがいざという時の行動に繋がってくると思うので、分けるという意識がよくないのでは。</p>
●担当課長	<p>決して分けて考えているのではなく、名簿についても、見守りが必要な方の中に災害時の要支援者だと分かるようにすることが必要であり、あくまでも普段の見守りがあり、いざという時に繋がるようにしていきたい。</p>
◆会長	<p>民生委員の見守りの中でも、普段の生活で支援を受けていても、いざという時は別の支援の方が対応して下さるから大丈夫だと言われることがある。現場は混乱</p>

	<p>することが多く、そういった声をどこに届けたらよいのか。</p>
●担当課長	<p>非常に難しい問題だが、結局個別の対応になってしまうと思う。人によって様々なケースが考えられるので、その辺を整理するためにも、今回の「地域支え合い条例」の中でクリアにしていければと考えている。</p>
◆委員	<p>自主防災組織とは手を挙げたところだけなのか。</p>
●担当課長	<p>基本的には自分たちで規約等を作っていたので、何が何でも作ってくれというものではなく、自主的な組織である。自治会単位で組織しているところが多いが、中には複数の自治会が合同で行っているところもある。それでも市内では54団体なので、まだまだ組織されていない自治会も多い。</p>
◆委員	<p>自主防災組織については、手を挙げたところだけでなく、市で大きくPRしていただきたい。</p>
●担当課長	<p>微力ながら出前講座等のPRを行っているが、ご指摘の通りまだまだ不足しているところもあるので、これからもPRに努めていきたい。</p>
◆委員	<p>大きい自治会では、要支援者を把握するのは非常に困難である。「地域支え合い条例」において組織をつくったとしても、名簿がなければ、実際に地域や自治会でどう支えるのか分からない。行政で個人を特定しないでくれと言っているにも関わらず、地域や自治会で支え合うというのはできないことだと思う。</p> <p>小さい自治会で、互いに顔が見えるような状態であればまだしも、大きい自治会では不可能である。</p>
●担当課長	<p>名簿については、個人情報保護の観点も絡んでくるので、すぐに解決できる問題ではないが、地域で支えあっていくとしながらも名簿は提供できないというのは難しいので、共有する名簿を提供できるようにしていきたいと思う。</p>
◆会長	<p>自主防災組織のリーダー育成研修を実施するということがあったが、経済的な補助はあるのか。</p>
●担当課長	<p>補助金の制度があり、設立時に20万円、毎年の活動運営費として2万円を限度として出している。</p> <p>その他、宝くじの財団で、申請して承認されれば、200万円を上限とした補助制度もある。</p>
◆会長	<p>自治会とは別に自主防災組織を立ち上げる場合に、人数の制約はあるのか。</p>

●担当課長	<p>複数の自治会が合同で組織を立ち上げているところもあるので、特に人数の制約は設けていない。</p>
◆委員	<p>自分たちの自治会では自主防災組織を立ち上げている。活動補助金では、備蓄用の食料品は購入できない等の制約がある中で、定款を作り、何とか自分たちの地域を守るために活動している。実際に、2万円では月に1回集まる際のお茶代にもならないし、お金のために活動しているわけではないが、「2万円を補助しているのだから。」という考えはやめてもらいたい。</p> <p>もう1点、学校等にあるスピーカーが聞こえない場合もある。予算が限られた中での要望になるが、土砂災害の危険性がある自治会や河川に隣接する自治会には、避難等の指示がより多くの人に伝わるように、公民館にもスピーカーを設置していただきたい。</p>
●担当課長	<p>避難勧告等のアナウンスについては、ここ数年の教訓を踏まえて早めに出すような体制をとっている。避難を伝達する方法については、屋外スピーカーや防災ラジオ、コミュニティFM、エリアメール等がある。どの手段でも欠点があるのでどれかの方法で入手していただければと思う。</p>
◆委員	<p>自主防災組織のリーダーは自治会長になる場合が多いのか。</p>
●担当係長	<p>自治会長が担っている場合が多いが、1年で代わってしまう自治会もあるので、市としては数年継続して担っていただけの方をお願いしたいと考えている。</p> <p>または、自主防災組織の会長とは別に、防災リーダーを決めていただき、その方に長く担っていただいているケースもある。</p>
◆委員	<p>市として、「自治会長や民生委員が担う」等のマニュアルを作成してはどうか。</p>
◆委員	<p>そうすると、その役を引き受けてくれる人がいなくなり、ますます探すのが難しくなると思う。</p>
◆会長	<p>せっかくの制度なのだから、先に立ち上がった自治会等の体験談を聞く機会、情報を共有する機会があったほうがよいのではないかと。横の繋がりに対する市の取り組みはあるのか。</p>
●担当課長	<p>もちろん危機管理課において前例等を交えながら相談は受けているが、現時点ではそういった機会は設けていない。</p> <p>来年からはリーダー育成の研修を開催する予定なので、その中で横の繋がりが生まれるような活発な意見交換ができることを期待している。</p>

◆委員	<p>非常に大切なことだと思う。</p> <p>皆が手探りで活動しているので、体験談を聞くことは大事なことで、地域性は違っても、自主防災組織という同じ目的であるから、横の連携という部分だけは、行政で仕掛けていかなければならない。</p>
●担当課長	<p>貴重なご意見を参考にさせていただきたい。</p>
●事務局	<p>5. 連絡事項</p> <p>○大平わいわいテラスワークショップ開催のお知らせ</p> <p>【次回（第8回大平地域会議）開催日程】</p> <p>○平成30年1月25日（木）18時30分～ 大平総合支所 新館2階 第一・第二会議室</p> <p>6. 閉 会</p>

別紙 出席者及び事務局職員

出席者（委員）

会 長	赤澤 美智子	副会長	伊藤 宏幸		
委 員	川島 孝宣	委 員	川瀬 悦子	委 員	黒田 愛美子
委 員	佐山 晃尉	委 員	関根 淑子	委 員	滝田 由紀子
委 員	富山 勝也	委 員	永田 英人	委 員	長山 安隆
委 員	平井 良三	委 員	藤崎 英治	委 員	藤野 晴彦

欠席者（委員）

委 員	尾花 隆男	委 員	永島 匡	委 員	藤原 美恵子
-----	-------	-----	------	-----	--------

出席者（事務局）

大平地域まちづくりセンター（大平地域づくり推進課）課長補佐 小林 勝利
同 主査 田中 佳代

出席者（担当課）

総務部 危機管理課長 糸井 孝王
同 課長補佐 國府 泰浩
保健福祉部 福祉総務課長 渡辺 健一
同 課長補佐 神長 利之
栃木市消防本部 消防総務課 主幹 本名 義人
同 主査 古澤 隆